

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成24年2月2日(2012.2.2)

【公表番号】特表2009-511867(P2009-511867A)

【公表日】平成21年3月19日(2009.3.19)

【年通号数】公開・登録公報2009-011

【出願番号】特願2008-534025(P2008-534025)

【国際特許分類】

G 0 1 N 21/82 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 21/82

【誤訳訂正書】

【提出日】平成23年11月25日(2011.11.25)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

部品の表面上の残留物を検出する方法であって、
 基礎溶液（1）および基準溶液（2）を水から生成するステップと、
 新しい溶媒を前記基礎溶液の一部に加えて洗浄溶液を生成するステップ（3）と、
 検査すべき前記部品の少なくとも一部を前記洗浄溶液で満たすステップ（4）と、
 前記部品の内面全体を前記洗浄溶液で濡らすステップ（5）と、
 前記部品から前記洗浄溶液を排出するステップ（6）と、
 前記洗浄溶液を前記基礎溶液の残りに加えて検査溶液を生成するステップ（7）と、
 前記検査溶液と前記基準溶液を比較するステップ（8）と、
 前記部品の表面上の潤滑剤の証明（10 a、10 b）として、前記洗浄溶液と前記基礎溶液の間の混合ゾーンに濁りが発生したかどうかを検査するステップ（9）とを含む方法。

【請求項 2】

前記基礎溶液（1）および前記基準溶液（2）を生成するために、脱イオン化または蒸留されている水 9 m l が試験管に入れられる、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記洗浄溶液を生成するため、新しい溶媒 1 m l がパスツール・ピペットを使用して前記基礎溶液の前記一部に加えられる、請求項 1 または 2 に記載の方法。

【請求項 4】

検査すべき前記部品が、その空体積の5 ～ 10 %を前記洗浄溶液で満たされるが、前記洗浄溶液は 0 . 1 l を超えない、請求項 1 ～ 3 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 5】

前記部品が前記濡らすステップ（5）で所定の前記洗浄溶液で曝される時間の経過後に振られ、および／または旋回され、前記表面からの前記潤滑剤の溶解を促進する、請求項 1 ～ 4 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 6】

前記曝される時間が少なくとも 10 分であり、前記振りおよび旋回が 10 から 15 回行われる、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 7】

前記検査溶液を生成するため、前記使用済み洗浄溶液 1.0 ml がパストゥール・ピペットを使用して上方から試験管内に移されるものであり、前記試験管は水 9.0 ml で満たされており、前記水は脱イオン化または蒸留されており、前記試験管は前記使用済み洗浄溶液を移す間は動かされない、請求項 1～6 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 8】

前記洗浄溶液を生成するための溶媒として、2-プロパノール、変性エタノール、またはアセトンが使用される、請求項 1～7 のいずれか一項に記載の方法。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0024

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0024】

本発明による方法は、1つまたは可能な場合は複数の以下の特徴を含むことが好ましい。基礎溶液および基準溶液を生成するために水 9 ml を試験管に入れ、水が脱イオン化または蒸留されていること、洗浄溶液を生成するために新しい溶媒 1 ml をパストゥール・ピペットを使用して基礎溶液に加えて、溶媒－水混合ゾーンが試験管の中身の上方領域に生じるようにすること、検査すべき部品がその空体積の約 5～10% を洗浄溶液で満たされるが、洗浄溶液は 0.1 l を超えないこと、部品が所定の曝される時間の経過後に振られ、および／または旋回され、潤滑剤の表面からの溶解を促進すること、曝される時間が少なくとも 10 分であり、振りおよび旋回が 10 から 15 回行われ、複雑な表面では曝される時間が 2 倍とされること、および、検査溶液を生成するため、使用済み洗浄溶液 1.0 ml がパストゥール・ピペットを使用して上方から試験管内に移されるものであり、その試験管は水 9.0 ml が満たされており、その水は脱イオン化または蒸留されており、その試験管は使用済み洗浄溶液を移す間は動かされないことである。洗浄溶液の生成には、2-プロパノール、変性エタノール、またはアセトンが使用される。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0029

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0029】

ステップ 4 で、検査すべき部品が洗浄溶液で満たされ、適量の洗浄溶液が使用される。この洗浄溶液量は部品の体積の関数である。好適には、部品の空体積の約 5～10% が溶媒で満たされるが、その量は環境保護の理由から 0.1 l を超えない。ステップ 5 で、部品が嵌合ストッパによって閉鎖され、内面全体が洗浄溶液で濡れるように回転される。所望の効果を得るには、洗浄溶液を少なくとも 10 分間活動させなければならない。複雑な内面では、曝される時間を 2 倍にして、全表面が洗浄溶液で濡れるようにする。確実に全表面を濡らすには、好ましくは部品が 10 から 15 回振られ、または旋回される。したがって、部品の表面に沿った洗浄溶液の流れによって、潤滑剤の溶解が促進される。